



ヤニックのドイツ紹介 ② Zwei (ツヴァイ)

サンタクロースのモデル「聖ニコラウス」

皆さん、こんにちは！ Guten Tag！（グーテン ターク）

上越市の国際交流員、ディーツ・ヤニックです。このコーナーでは私の出身国であるドイツについて連載しています。

本号では、12月の過ごし方と「聖ニコラウス」にまつわる習慣を紹介します。

◀「聖ニコラウス」に扮した人 (©Richard Huber CC BY-SA 3.0)



ドイツでは、12月に入ると、福音書の中に書かれている「ナザレのイエス」の誕生祭と言われるクリスマスに向けて準備をします。この時期は「Advent (アドベント)」と呼ばれ、ラテン語で「(キリストの)到来」という意味があります。

ドイツのクリスマスの祝日は12月24日～26日までの3日間で、大切な人(家族、親戚、恋人、友人など)に会ったりプレゼントをあげたりする習慣があります。また、世界中で人気の、クリスマスのマスコットとも言えるサンタクロースはドイツでも大人気です。

そのサンタクロースのモデルになっているのは、「聖ニコラウス」と呼ばれるキリスト教の聖人です。12月6日は「聖ニコラウスの日」となっていて、ドイツのほかヨーロッパの多くの国でこの日を祝います。

聖ニコラウスの日のお祝いは、地域によって大きく異なります。ドイツでは、子どもが親からお菓子(クッキー、ミカン、クルミなど)や小さなプレゼントをもらうことが一般的ですが、悪い子はお仕置きされてしまうこともあります。また、昔から、聖ニコラウスに扮した人が家を訪問する習慣があり、悪魔や「ブッテンマンデル」という鬼の集団が付いてくことも多くあります。



聖ニコラウスと女子ニコラウス、ブッテンマンデルという鬼の集団

ベルヒテスガーデナー・ラント地域の聖ニコラウスと鬼の集団 (©Lukas Niederberger CC BY-SA 4.0)



南ドイツのバイエルン州ベルヒテスガーデナー・ラント地域には、ドイツでも珍しいお祭りがあります。16歳以上の未婚男性が、聖ニコラウスと女子ニコラウス、そして鬼の格好をした「バス」という一団となって、叫び声や鐘の音とともに騒がしく家々を回ります。(写真を見ると、鬼の格好は日本のなまはげにそっくりでしょう?) こんなに怖い集団にお仕置きされると、悪い子もおとなしくなるのではないのでしょうか。



12月の毎週日曜日には「アドベントスクランツ」というろうそくに1本ずつ火をつけていき、クリスマスまでの残りの時間を数えます (©Till Westermayer CC BY-SA 2.0)

またお会いしましょう！ Auf Wiedersehen！（アウフ ヴィーダーゼーエン）

東京2020オリンピック競技大会まであと 236日
東京2020パラリンピック競技大会まであと 268日

※表示日数は12月1日時点です。

上越市
オリンピック・パラリンピック推進室
公式フェイスブックはこちらから▶

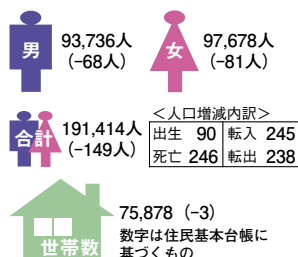


広報対話課から (☎025-526-5111)

●「広報上越12月15日号」は、12月12日④・13日⑤に各町内会へお届けし、各世帯にお配りします。届かない世帯の人は、広報対話課または、各総合事務所へご連絡ください。

上越市の人口・世帯数

令和元.11.1現在。()は前月との比較



表紙のことは：高田公園の冬支度

高田公園では10月下旬から12月上旬にかけて、樹木約5,600本とブロンズ像26基の冬囲いを行っています。写真のとおり、ブロンズ像は冬季も鑑賞できるよう正面を開けて三方を囲みます。高田公園冬囲いは、いよいよ冬がやってくることを感じるような風物詩ですね。皆さんも本格的な冬に向けた準備は万端でしょうか。